

6/29-7/5#3からだのために命を供給する:1ヨハネ5:14~17が示していることによれば、私たちは永遠の命を持って、それを享受しているだけでなく、またこの命をからだの他の肢体に供給することができます:1ヨハネ5:14 何事でも、私たちが彼のみこころにしたがって求めるなら、彼は聞いてくださいます。これこそ、私たちが彼に対して持っている大胆さです。15 私たちの求めるものは何でも、彼が聞いてくださることを知っているなら、私たちが彼に求めた願いは、かなえられていることを知ります。16 だれでも自分の兄弟が、死に至らない罪を犯しているのを見たなら、その人は祈り求めるべきです。そうすれば、彼はその人に、死に至らない罪を犯している人たちに、命を与えます。死に至る罪があります。それについて祈り求めるべきであるとは、私は言いません。17 すべて不義は罪です。しかし、死に至らない罪もあります。A14節から17節が私たちに見せているのは、私たちの内側の永遠の命が、私たち自身における死、また召会の他の肢体たちにおける死に打ち勝つことができるということです。B16節は、聖書の中で人に命を供給することを述べている唯一の節です:1命を供給するとは、命を分け与えることです。2私たちは命の余剰を持つとき、この余剰から他の人たちに供給することができます。C14節は、永遠の命の交わりの中での祈りについて語っています:1私たちは、神のみこころにしたがって求めるべきであって、私たちの方法、願望、好みにしたがって求めるべきではありません。2神のみこころにしたがった祈りが示しているのは、祈る人が神聖な命の交わりの中に住んでおり、また主ご自身の中にも住んでおり、こうして彼が真に主と一であるということです。31ヨハネ5:15の「知る」ことは、私たちが神聖な命を受けた後、主の中に住んでおり、彼の御名における神への祈りの中で、彼と一であるという事実に基づいています。41ヨハネ5:16の「その人は祈り求めるべきです」と「彼は...命を与えます」は、同じ人を指しています。すなわち、自分の兄弟が罪を犯しているのを見て、その兄弟のために祈り求める人を指しています。aそのように祈り求める人、すなわち、主の中に住んでいて、主と一であり、主と一つ霊の中で祈り求めている人は、手段、経路となり、それによって神の命を与える霊は、彼が祈り求めている人に命を与えることができます。bこれが、神聖な命の交わりの中で命を供給するという事柄です。5極めて重要な点は、もし私たちが1ヨハネ5:16で述べられている事にしたがってある兄弟のために祈ろうとするなら、主と一である必要があるということです。D命の務

めは、私たちが経験してきたキリストを命として供給することです:1務めは十字架の働きによって生じます。私たちが命としてのキリストの豊富を持って他の人たちに供給するのは、十字架の道によります。2私たちがどれほど多くの命とどれほどキリストの豊富の実際を供給することができるかは、私たちがどれほど啓示を受けてきたか、またどれほど私たちに啓示されたことのゆえに苦難を受けてきたかによります。II. 私たちは命を供給しようとするなら、神を復活の神として知り、経験し、獲得する必要があります:2コリント1:9 実に、私たちは自ら、自分自身のうちに死という答えを持ちました。それは、私たちが自分自身に信頼するのではなく、死人を復活させる神に信頼するためでした。A神は十字架を通して働いて私たちを終結させ、私たちを終わらせつつあります。それは私たちがもはや自分自身に信頼するのではなく、復活の神に信頼するためです。B復活の神が私たちの中で働くとき、彼の命と性質が私たちの中へと造り込まれます。C十字架の殺しは、復活の命の現れという結果になります:2コリント4:10 絶えずこの体に、イエスの致死力が働いています。それはまた、イエスの命が、私たちの体に現されるためです。11なぜなら、私たち生きている者はイエスのために、絶えず死に渡されているからであり、それはイエスの命が、私たちの死ぬべき肉体に現されるためです。12 こうして、死は私たちの中で働き、命はあなたがたの中で働きます。1イエスの致死力は天然の人、外なる人、肉を破壊し、その結果、内なる人が発展し、更新されて復活の命を生かし出す機会を与えます。2主が私たちに対して行なっているすべての働きは、私たちの外なる、天然の人を破壊することです。それによって私たちは内側からキリストの命を生かし出すことができます。これが、新約におけるクリスチャン生活に関する最も深い思想です。3キリストの死の中にとどまり、彼の死に同形化されることは、クリスチャン生活の深遠な原則です:a私たちはキリストの死の中にとどまるとき、キリストの復活の力を経験します。b私たちがこのようにキリストと共に死ねば死ぬほど、彼の復活の力はますます私たちの中で現され、キリストのからだにますます命を供給することができるようになります。4私たちの天然の力と能力は、十字架によって対処される必要があります。それは復活の中で、命を供給することに役立つようになるためです。D芽を出し、花を咲かせ、実を結ぶ杖は、キリストの復活の命を表徴し、それは私たちがからだに命を供給するためです。III. 私たちは命の中でからだを認識す

**る必要があります:**エペソ1:23 この召会は、キリストのからだであり、すべての中ですべてを満たしている方の豊満です。1コリント12:27 今や、あなたがたはキリストのからだであり、そして各自は肢体なのです。10:17 一つパンであるからには、私たちは数多くても一つからだなのです。**A**キリストのからだは、私たちの中の命としてのキリストによって形成されます。この命は私たちとミングリングして、キリストのからだとなります。**1**私たちの中の命は、「肢体」の命ではありません。それは「からだ」の命です。**2**私たちはみなこの命の中で一です。命の中のこの一は、キリストの奥義的なからだです。**B**命の中でからだを認識することは、私たちの命の経験と霊的な成長の結果です。**1**私たちはからだを認識し、からだの実際に触れるために、命の経験と命の成長の中で前進しなければなりません。**2**私たちは霊的な命の第四段階に到達してはじめて、キリストのからだの奥義を認識することができます。**3**私たちはからだを認識し、からだの中で生きるために、肉、自己、天然の構成を対処する必要があります。**a**もし私たちがまだ肉にしたがって、自己の中で生き、天然の能力の中で仕えているなら、私たちの中のキリストご自身であるからだの命は現されることができず、私たちはからだを認識することができません。**b**肉が対処され、自己が捨てられ、天然の構成が砕かれてはじめて、私たちはからだの実際に触れることができます。**c**からだを認識することは個人主義を対処することです。からだを認識しない者はみな個人主義者です。1コリント12:18 しかし今、神は各肢体を、それぞれ体の中に、彼の意図するままに置かれました。19 もし全部が一つの肢体であるとしたら、体はどこにあるでしょうか?20 しかし今や、肢体は多くあっても、体は一つです。**D**私たちがからだを認識しているという証明は、個人主義であることができず、からだの中にいない者を識別することができ、からだの秩序の中に現されたかしらであるキリストの権威を認識しているということです。**IV. 私たちは実行上からだを認識する必要があります:****A**地方召会は特定の地方におけるキリストのからだの表現です。**1**一つの宇宙召会(キリストのからだ)は、多くの召会(キリストのからだの地方的な表現)となります。1コリント12:14 体は一つの肢体ではなく、多くの肢体から成っています。使徒13:1 さて、アンテオケの地に在る召会には、...預言者たちと教える者たちがいた。**2**キリストの唯一のからだは、諸地方召会として表現されます。**3**あらゆる地方召会はキリストの唯一の、宇宙的なからだの一部分、からだの地方的な表現です。

**4**私たちがからだを認識するなら、私たちの考慮において、からだが第一となり、地方召会は第二になります。**B**主の回復の中にはただ一つの働き、すなわち、からだの働きがあります。今日私たちが行っているのは、私たちの個人的な働きではなく、神のエコノミーの働き、すなわち、キリストのからだを建造することです。**V. 聖書の教えと私たちの霊的な経験によれば、キリストのからだの感覚と呼ばれるものがあります:**2コリント11:28 ここに述べなかった事柄のほかにも、日ごとに私の上へのしかかってくるたくさんの圧迫、すべての召会に対する心配事があります。29 だれかが弱っているのに、私が弱らないでおれましようか? だれかがつまずいているのに、私自身が燃えないでおれましようか?**A**キリストのからだの感覚は、キリストを享受することから来ます。**1**私たちが、食物、飲み物、また息として享受する親愛なる尊い方は、からだのかしらです。**2**私たちが享受するものは、実はかしらとしてのキリストからのものです。ですから、私たちがキリストを享受するとき、彼を主観的にまた経験的に私たちのかしらとします。**3**私たちがキリストを享受するとき、かしらである彼は私たちにキリストのからだの感覚を持たせます。**B**キリストのからだの感覚は、私たちの内側にあるキリストの命の感覚です。**1**キリストのからだは、私たち一人一人の中の、また私たちとミングリングされている、命としてのキリストによって形成されます。**2**私たちはキリストのからだの感覚について、私たちの内側の神聖な命の感覚をもって始める必要があります。**C**キリストのからだは宇宙的であり、私たちの内側の神聖な命は宇宙的であり、からだの感覚もまた宇宙的です。**1**いったん神聖な命とその霊が私たちの中へと入るなら、私たちは宇宙的な感覚、すなわちからだの感覚を持つはずですが、**2**からだの感覚は宇宙的な事柄ですが、私たち自身の感覚や見解のゆえに、この感覚は私たちの中で制限を受けています。**3**私たちは主の砕きを経験すればするほど、また自己から救い出されれば救い出されるほど、ますますからだの感覚が宇宙的であることを見いだします。**4**私たちがからだの感覚を持つなら、他の人たちが苦しみ、あるいは幸いであるとき、私たちは彼らに共感し、同じ困難や祝福を感じるでしょう。**D**私たちはキリストのからだの肢体として、からだの意識を持ち、またからだの感覚を持つ必要があります。**1**私たちはからだの生活をするために、からだの意識を持つ必要があります。**2**私たちはキリストのからだの感覚を持ち、からだを顧慮するなら、からだを私たちの思考と活動の規範とします。